



第5回常任理事会

日時 平成24年6月12日(火) 18:00~20:18
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、北野・渡邊・三戸・目黒・藤井・深澤・直江・橋本・前川・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒各常任理事、水元・中村・大口各監事

(事務局:武藤事務局次長ほか12名)

協議事項

第1号 日本医師会医療政策会議委員の委嘱に関する件(深澤常任理事)

横倉日医会長から個人指名で依頼のあった医療政策会議委員として、依頼のとおり長瀬会長を推薦することと決定。

第2号 平成24年度北海道老人クラブ連合会が行う健康づくり支援事業「健康をすすめる運動」委員会委員の就任に関する件(深澤常任理事)

地域保健部を担当する事業第三課・文屋 昌彰課長を推薦することと決定。

第3号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座55件、道医認定生涯教育講座75件、合計130件を承認することと決定。

第4号 第1回郡市医師会長協議会の追加議題に関する件(深澤常任理事)

6月16日(土)開催の協議会に「今夏の電力需給対策について」「HAC(北海道エアシステム)について」の2議題を追加することと決定。

第5号 その他

今夏の電力供給対策に関し、北電からの節電要請に対してはできる限り協力するが、道民の命を預かる医療機関の公共性・特殊性を勘案し、道内の医療機関等を計画停電の対象から除外するよう北電に要望する方向で検討することと決定。

報告事項

1. 臨床研修病院合同説明会in東京[4月29日(日)・東京]について(渡邊常任理事)

北海道として、福岡、札幌に続き、2012年の第3回目を東京において開催した。北海道ブース(24病院)には341名の医学生が参加。そのうち127名(男性92名、女性33名、無回答2名。北海道出身は19名)よりアンケート回答を得た。「北海道(または北海道の臨床研修病院)に関心があるか」という問いに対して、自然環境の良さや北海道の地域医療に興味があるという方を含め106名(83%)の方が関心ありと答えていた。また、今後、北海道の臨床研修病院についての情報提供を希望する方が61名(49%)であった。

2. 市民と考えるセミナー「救急医療ってなんだろう?」[5月19日(土)・小樽市]について

(目黒常任理事)

小樽市の主催、小樽市医師会の共催により開催され、小職が「救急医療システムを上手く利用するには一地域医療を壊さないために」をテーマに講演を行った。その後、小樽市医師会・長谷川理事、小樽市保健所・秋野所長の講演があり、意見交換を行った。参加者は約180名であった。

3. 札幌医学・法律研究会[5月25日(金)]について

(水谷常任理事)

宮城県医師会顧問弁護士であり医師の水澤亜紀子氏が講師となり、医療訴訟の壁と題して講演が行われた。各専門医会で作成されたガイドラインが医療側と患者側で優位になるように利用されたり、裁判所においても判断基準として活用されていること、また患者側からみた三つの壁(専門性、密室性、封建制)について説明があった。参加者は弁護士と医師等42名であった。

4. 生活保護医療に関する打合せ[5月28日(月)]について(橋本常任理事)

当会と北海道保健福祉部福祉局福祉援護課との間で標記打合せを開催し、今年度の実施要綱・個別指導実施計画(案)について道担当者から説明を受け、協議の結果、了承した。

「生活保護法指定医療機関に対する個別指導」実施予定医療機関数は30カ所で、病院13、診療所17。なお、札幌市・函館市・旭川市(政令都市、中核市)においては、それぞれで本指導が実施されるため、上記実施件数から除いている。

5. 第1回会費・負担金等検討委員会[6月2日(土)]について(深澤常任理事)

委員長に旭川市・沼崎委員、副委員長に札幌市・鈴木委員を選出。長瀬会長より「時代の趨勢と医療環境の変化に伴い、当会会費・負担金等の取扱いに関して種々の問題が生じておりますので、時代に対応した会費・負担金等のあり方についてご検討賜りたい」との諮問の後、検討事項について協議した。今後は、会費減免、開業時負担金、定率会費、その他の会費・負担金について各ブロックの意見を確認し進めていくこととなった。第2回は8月25日(土)

午後4時より開催する予定である。

6. 緊急臨時的医師派遣事業推進協議会・第3回運営委員会[6月4日(月)]について(宮本副会長)

推進協議会では、平成23年度の実績が報告され、その後、社会医療法人からへき地診療所への医師派遣に関して意見交換を行った。引き続き、運営委員会が開催され、派遣申請のあった新規3件と再申請4件の状況について条件を精査の上、派遣を決定した。また、新たな派遣元として3医療機関が登録された。

7. 第1回産業保健活動推進委員会[6月5日(火)]について(生駒常任理事)

今年度の産業保健研修会(5回)の講師選定を行った。また、北海道の補助事業である平成24年度北海道医師会「うつ病・自殺予防対策事業」の実施について地域保健部より協力が求められた。

8. 神奈川県医師会との「保険医療に関する懇談会」[6月9日(土)]について(橋本常任理事)

神奈川県医師会と「医療機関に対する指導のあり方」を中心とした懇談会を開催。指導の状況、対象医療機関の選定条件のほか、医師会として実施している保険診療に関する取り組み状況、指導に帯同する弁護士問題、突合点検による査定問題についても両地区の状況が説明され、それぞれの課題と今後の対応について意見を交換した。

9. 外部各委員会報告

(1) 第1回北海道がん対策推進委員会[5月16日(水)]について(長瀬会長)

北海道がん対策推進条例に基づき、新たに知事の附属機関として委員会が設置された。会長には小職、副会長に北海道がんセンター院長・西尾正道委員が選出された。その後「緩和ケア・在宅医療専門部会」「がん患者等支援専門部会」の設置について提案がなされ、了承された後、各部会委員を小職より指名した。

(2) 道央ドクターヘリ運航調整委員会[5月18日(金)]について(目黒常任理事)

委員長に札幌医大・浅井名誉教授、副委員長に小職が引き続き選出され、その後、平成23年度運航実績と重点課題の進捗状況について報告が行われた。また、本年度の重点活動であるドクターヘリの運航を効果的に行うためのキーワード方式の導入については、引き続き検討を行うこととなった。

(3) DMAT検討ワーキンググループ会議[5月21日(月)]について(目黒常任理事)

札幌医大・水野先生より昨年度の実動訓練結果の報告の後、今年度の訓練内容について議論した。今年度の訓練について、自衛隊より8月27日から9月5日に実施する北部方面隊総合戦闘力演習の中で国民保護法に基づいた協同訓練の提案がなされたが、全国的に厚労省を含めて

DMATの訓練参加のコンセンサスが得られない状況であることから、想定を読み替えなどを含め実現に向けて、再度検討することとなった。

(4) 第1回北海道高齢者虐待防止推進委員会[5月21日(月)]について(前川常任理事)

平成23年度北海道高齢者総合相談・虐待防止センター相談状況の報告があり、平成24年度事業計画では、高齢者虐待の実態調査、虐待防止推進研修会(基礎編・在宅編・施設編)、身体拘束廃止推進委員会の開催、情報提供パンフレット・事例集の作成などについて協議された。

(5) 北海道防災会議[6月7日(木)]について(長瀬会長)

34関係機関の代表者が出席し、14年ぶりに開催された。北海道防災会議会長の高橋知事より挨拶の後、北海道防災会議の今後の取り組みについて、北海道防災計画(本編及び地震防災計画編)の修正、市町村地域防災計画の修正、北海道防災会議運営規程の改正について提案があり、了承された。その後、事務局より今年度の防災総合訓練ならびに北海道地域防災計画(原子力防災計画編)の修正等について説明がなされた。

(6) 第8回新たな北海道病院事業改革プランの策定に関する検討委員会[6月7日(木)]について(直江常任理事)

道立病院の役割・あり方に関して、本委員会の意見(案)を取りまとめ、その後、今後の経営形態について議論を行った。

(7) 北海道救急業務高度化推進協議会[6月7日(木)]について(目黒常任理事)

北海道におけるビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管の講習および実習体制ならびに、硬性喉頭鏡による直視下気管挿管およびビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管に係るプロトコル作成について協議が行われ、了承された。十勝圏メディカルコントロール協議会より要望のあった「メディカルコントロール検証医師」の要件緩和については、今後、ワーキンググループにおいて検討されることとなった。

10. その他

(1) 第1回都道府県医師会長協議会[7月17日(火)]の協議議題の提出について(深澤常任理事)

当会からの提出議題について検討し、今月末の三役会で最終調整することとした。

道総医協関連事項

1. 総会・各専門委員会[5月22日(火)]について(総会(三宅副会長))

知事代理として多田副知事から挨拶の後、委員の退任に伴い副会長に札幌医大・渡邊教授が選出された。3専門委員会(救急医療・地域医療・地域保健)から平成23年度協議実施状況の報告があり、本年度

の協議予定事項および「新・北海道保健医療福祉計画および北海道医療計画」の見直しの基本的な考え方と計画特別委員会の設置について協議が行われ、了承された。その後、計画特別委員会委員として協議会委員13名、臨時委員5名の指名があった。引き続き、専門委員会が開催された。

救急医療専門委員会（目黒常任理事）

昨年度から継続審議となっている北海道消防防災ヘリコプターによる救急患者搬送の考え方について、事務局より運航基準の改正案等が示され、フリートーキングを行った。

地域医療専門委員会（宮本副会長）

本年度の協議予定事項について、継続事項の「地域医療再生計画」および新規事項の「在宅医療の提供体制」等の概要説明が行われた。その後、3小委員会（看護対策・周産期医療・医療施設整備等検討）の24年度協議事項ならびに委員構成について協議が行われ、了承された。

地域保健専門委員会（畑副会長）

副委員長への退任に伴い北大・生駒教授が選出された。新たに設置された糖尿病対策小委員会委員8名、循環器疾患対策小委員会委員に三浦委員、介護老人保健施設整備検討委員会に生駒委員の指名があった。その後、がん診療連携拠点病院の整備と新たな地域医療再生計画について協議し、ともに了承された。

2. 計画特別委員会[5月22日(火)]について

(宮本副会長)

委員長に小職、副委員長に札幌医大・塚本教授が選出された。「新・北海道保健医療福祉計画」および「北海道医療計画」の見直しの概要説明があり、その後、二次医療圏の設定、精神疾患の医療体制、5疾病・5事業および在宅医療等について意見交換を行った。

第6回常任理事会

日時 平成24年6月26日（火）18：00～19：38
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、北野・渡邊・三戸・目黒・藤井・深澤・直江・橋本・前川・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒各常任理事、水元・中村・大口各監事

(事務局：島影事務局長ほか12名)

協議事項

第1号 母体保護法医師指定に関する件

(深澤常任理事)

6月の審査委員会で指定「可」とされた再審1名の申請者を指定医師とすることに決定。

第2号 民主党北海道総支部連合会2013年度政府予

算編成に向けた政策懇談会に関する件

(深澤常任理事)

7月7日に開催される標記懇談会に提出する要望事項8項目を決定。

第3号 HAC(北海道エアシステム)に関する要望書に関する件(直江常任理事)

HAC支援に関する要望書文案を決定、併せて明日北海道に提出することを確認。

第4号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件(生駒常任理事)

認定要件を満たした新規3名、更新105名の申請を承認。日医へ申請することと決定。

第5号 日本医師会認定健康スポーツ医の認定申請に関する件(岡部常任理事)

認定要件を満たした新規1名、更新4名の申請を承認。日医へ申請することと決定。

第6号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡邊常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座34件、道医認定生涯教育講座42件、合計76件を承認することと決定。

第7号 その他

(1) 7月行事予定に関する件(事務局)

報告事項

1. 都道府県医師会電力確保対策担当理事連絡協議会[6月15日(金)]について(北野常任理事)

今夏も全国的に電力需給の逼迫が懸念されることから急遽、開催された。日医が昨年来から政府、電力会社等と折衝した状況の報告があり、その後電力確保に向けた対応策の協議を行った。小職からは北海道は他県と異なり、夏期間よりも冬期間が電力需要がピークとなるため、その対策が不可欠であることを要望した。

2. 第1回北海道医療安全研究会・講演会[6月16日(土)]について(水谷常任理事)

北大医療安全管理部・南須原康行准教授が代表幹事を務める北海道医療安全研究会の第1回講演会が開催された。出席者は医師・コメディカルを含め300名。「ポート穿刺に伴う血管漏出事例とその後の対策」「医療における放射線被ばく～医療安全の立場から～」の2つの一般演題を発表後、「医療安全・これまでの取り組みとこれからの展望」と題して名古屋大学・長尾能雅教授から特別講演が行われた。

3. 第15回日本臨床救急医学会総会・学術集会[6月16日(土)・17日(日)・熊本市]について

(目黒常任理事)

熊本大学大学院生命科学研究部侵襲制御医学分野・木下順弘教授が学会長となり「救急医療、accessibility and quality」をテーマに開催された。会長講演のほか、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、一般演題等が行われ、約1,800名の参加があった。なお、第16回は平成25年7月12日(金)・13日(土)

に、日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野・丹正勝久主任教授が学会長となり、東京国際フォーラムで開催される。

4. 女性医師等支援相談窓口コーディネーター連絡会[6月17日(日)]について(藤井常任理事)

昨年6月15日に開設した女性医師等支援相談窓口事業の23年度の実績報告ならびに24年度実施計画、特に、今年度から開始する復職研修支援事業と相談窓口事業のPR活動について協議した。

5. 北海道がん対策シンポジウム[6月17日(日)]について(長瀬会長)

本年4月に施行された「北海道がん対策推進条例」を契機に、がん対策への取り組みの気運の醸成を図ることを目的に開催された。北星学園大学文学部・大島寿美子教授の基調講演ののち、パネリスト4名によるパネルディスカッションが行われた。参加者は49名であった。

6. 第5回札幌医学・法律研究会[6月20日(水)]について(水谷・藤井各常任理事)

東京で法律事務所を開設する北澤龍也弁護士による産婦人科(サイナソイダルパターン事案)の講演が行われた。産婦人科医師がほとんど遭遇することのない事例での勝訴に至るまでの裁判(裁判官を十分に理解させるための準備書面の作成の戦略)について語られた。

7. 緊急臨時的医師派遣事業第4回運営委員会[6月21日(木)]について(宮本副会長)

派遣再申請のあった5件の状況について条件を精査の上、派遣を決定した。また、派遣元として5医療機関が登録された。

8. 日医理事会報告(長瀬会長)

報告事項として、都道府県医師会電力確保対策担当理事連絡協議会の件等、また承認事項として、日本医師会会内委員会委員委嘱の件があった。協議等に関しては、すでに日医速報で報じられており、そちらを参照願いたい。

9. 外部各委員会報告

(1) 北海道救急搬送交通アクセス向上連絡会議[6月13日(水)]について(目黒常任理事)

北海道建設部より、救急搬送交通の現状とアクセス向上への取組について説明があり、意見交換を行った。今後も全道的な課題等についての情報共有、意見交換および検討の場として継続して開催し、関係機関相互の連携促進を図っていくこととなった。

(2) 北海道HTLV-1母子感染対策協議会[6月13日(水)]について(岡部常任理事)

母子感染対策の体制整備を図るための第1回協議会が開催された。北大・水上尚典教授が会長に、札幌市立大学・富樫武弘特任教授が副会長に選ばれ審議に入った。国および北海道のHTLV-1対策の取組状況についての報告があ

り、平成24年度研修会、道内の妊婦健診における抗体検査の状況とそのフォローについて協議された。

(3) 北海道地域包括・在宅介護支援センター協議会第1回正副会長・幹事合同会議[6月18日(月)]について(前川常任理事)

平成23年度事業・収支決算、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会の動向についての報告があり、平成24年度職員研修、平成24年度会計補正予算(案)、代議員総会の持ち方について協議された。

(4) HTLV-1ウイルス、HAM、ATL公開講演会シンポジウム[6月23日(土)]について

(岡部常任理事)

北大血液内科・田中淳司氏、厚労省研究事業班・内丸薫氏、NPO法人・笹野一瑛氏よりそれぞれ挨拶があり、「HTLV-1キャリアってどういうこと」「ATLについて」「HAMについて」の3演題についての講演後、「HTLV-1感染者および関連疾患への相談体制について」と題してシンポジウムが行われた。参加者は100名余であった。

(5) 第9回新たな北海道病院事業改革プランの策定に関する検討委員会[6月25日(月)]について

(直江常任理事)

道立病院の今後の経営形態について議論を行い、地方独立行政法人への移行が望ましいとする意見を取りまとめた。なお、本検討委員会の道立病院の役割・あり方および経営形態に関する意見書は、今月末までに道に提出する予定である。

10. 中央情勢報告(直江常任理事)

「自民党 政権交代に向けた政策」

自民党が5月31日に公表した「日本の再起のための政策」およびTPPについての考え方を説明した。

11. その他

(1) 第46回北海道ドクターズゴルフ協議会役員会[6月24日(日)・帯広市]について

(伊藤常任理事)

本年の大会は、帯広市医師会の担当により132名の参加者を得て盛会裏に終了した。役員会では、昨年の決算報告・監査報告が承認された。続いて、第47回大会(平成25年度)は、恵庭市医師会の担当で6月30日(日)恵庭CCで開催し、第48回大会は、苫小牧市医師会の担当で平成26年6月29日(日)千歳空港CCで開催することが承認された。